

窓ガラスについて：

(ガラスの歴史と種類)

ガラスの歴史を辿ると紀元前7000年には存在していたと言われています。現在のガラス産業の起源となる動きは1916年にMichael. J. Owenが機械を使って平らなガラスを製造したことに始まり、その後1955年に米国ピルキントン社が現在主流となっているフロートガラスを紹介したと言われています。現在、以下4種類のガラスが一般的には存在します。

フロートガラス：現在最も広く使われているガラス。

強化ガラス：熱することでガラスの強度を引き上げたもの。

テンパードガラス：強化ガラスと同じであるが、一端熱して急冷させることで、更に強度を増したガラス。

化学強化ガラス：ガラスを溶融塩に浸透させ表面に圧縮層を形成したガラス。非常に強度が高い。建築用途では通常あまり見ない。

建築用途に使用されているガラスは、大きく分けて単板硝子、複層ガラス、合わせガラスに分類されます。

単板ガラス：文字通り、一枚のガラスで窓ガラスを形成しているもの。

- ・フロートガラス
- ・網入り、線入りガラス
- ・熱線吸収ガラス（ガラス製造過程で色素が混入されている）
- ・熱線反射ガラス（ガラスに金属薄膜層が形成されている。）

複層ガラス：2枚のガラスの間に空気層（空気やアルゴンガス）がある。特徴は、断熱効果が高いこと。

- ・透明複層ガラス
- ・熱線吸収複層ガラス（2枚の内、1枚のガラスが熱線吸収ガラス）
- ・熱線反射複層ガラス（2枚の内、1枚のガラスが熱線反射ガラス）
- ・Low-E ペヤガラス（2枚の内、1枚にLow-Eコーティングが施されたガラス）

合わせガラス：2枚のガラスの間に樹脂層（PVBやフィルム）がサンドウィッチされたガラス。

- ・透明合わせガラス
- ・熱線吸収合わせガラス（2枚の内、1枚のガラスが熱線吸収ガラス）
- ・熱線反射合わせガラス（2枚の内、1枚のガラスが熱線反射ガラス）